

## 卒業生挨拶

「駐車場のプラットホームに 南瓜の蔓が匍いのぼる 閉ざされた花の扉のすきまから  
てんとう虫が外を見ている 軽便車がきた 誰も乗らない 誰も降りない 柵のそばの黍の葉  
っぱに 若い切符きりがちょっと鉄を入れる (木下夕爾, 1973)」

晩夏の涼しい風が吹き、初秋の訪れが感じられる今日の佳き日、私たちは無事卒業  
することができます。卒業生を代表し、ご挨拶をさせていただきます。

本日、お忙しい中、私たちのためにご臨席くださいました諸先生方、誠にありがとう  
ございます。

振り返れば、私が関西国際大学に入学したのは今から二年前。これから始まる留  
学生活に大きな期待を寄せて三木キャンパスの正門の前に立ったことを、つい昨日の  
ことのように覚えております。入学式を終えて授業が始まると、九十分という授業  
の長さや内容の難しさに、合格の喜びは新たな不安へとかわっていきましたが、同  
時に「人生の新たな一章をつづりはじめた」という自覚もじわじわと湧いてきま  
ました。

日本へ出発前は「憧れの海外生活だ！」と希望に胸を膨らませながらも、「日本語  
話せるかな…」「生活に適應できるかな…」と、不安が入り交じってしまうもので  
ありました。

文化や風習、価値観などが異なる日本では、コミュニケーションをとろうとし  
ても、うまくいかない場合が多くありました。何を話せばいいのか、どんな振る舞  
いをすればいいかと何度も心配していました。そのような中で、ゼミの同級生や  
バイト先の方々は、優しくやり取りしてくれました。日本語に慣れるまで何週  
間もの時間もかかりましたが、身近な人と毎日会話し、真似をしているうちに  
耳も口も頭も日本語に慣れて、毎日少しずつ上達していきました。

また、今回の留学で得たもの、それは「自立心」だと思います。一人異国で  
生活をするということは、自分で考えなければいけないことや行動しなければ  
ならないことが自国にいる時より極めて多いからでした。ひとり暮らしを  
して、料理やお金の管理など、全てを自分でしなくてはならない環境におか  
れたので、留学前よりも自己管理がしっかりできるようになりました。親とい  
う存在は本当に大きな存在だということを改めて知ることができました。これ  
らの貴重な経験はきっと私の人生の支えになることでしょう。私は自信を持  
って一生にわたる財産を得たと言うことができます。

この二年間、私たちは、新型コロナウイルス感染拡大により、遠隔授業や  
クラブ活動等の制限を受け、経済的にもアルバイト時間の減少や保護者の収入  
減などが生じる中、様々な苦勞をしました。しかし、これらの苦勞を克服し、  
さらなる成長をとげたと思います。

コロナとの共存も我々の無視できない課題になってきました。本日も、皆さんの安全確保を最優先する視点から、色々な感染防止対策を講じながら、このように盛大な卒業式を行っていただいていることは、関西国際大学の教職員の方一人一人のご努力のおかげです。ありがとうございます。

関西国際大学は「教育基本法および学校教育法に基づき、グローバルな視野に立った教養を基礎とする専門知識・技術を修得し、安全な社会やコミュニティづくりに向けて総合的に活用できる人材を育成する」と教育目標に掲げています。本日卒業式を迎えた私たちは、困難と思える問題に出遭っても、自律的で主体的な態度を持ち、社会に能動的に貢献する姿勢を示しながら、様々な文化や背景を理解し受け容れる能力、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルや専門的知識・技術の活用力で対応していける資質を十分に備えているはずです。関西国際大学を卒業したことに誇りと自信を持ち、ウィズ・コロナの新たな時代を力強く歩んでいこうと思います。

最後になりましたが、これまで私達を支えてくださった先生方、職員の皆様、大学生活を様々な面から支えてくれた両親、常に励まし切磋琢磨した友人に、感謝と御礼を申し上げます。そして、関西国際大学のこれからの更なる発展と、本日までご出席いただきました皆様のご健勝を祈念いたしまして、卒業生代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

2021年9月10日

卒業生代表 人間科学部 人間心理学科  
烏東陶力